

# 京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2022年12月1日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第41号

## ウトロと東九条、これからもともに

2022年ゴールデンウィーク、東九条まちづくりサポートセンター（まめもやし）の村木美都子さんにお声がけいただき、ウトロ平和祈念館のオープン企画「ウトロウィーク」に、ボランティアスタッフとして参加させていただきました。東九条地域の貧困や差別との闘いや在日コリアンの歴史的背景を東九条で学び伝えてきたことや、2016年7月、ネットワークサロンの「東九条を知る学習会」で、斎藤正樹さん（ウトロを守る会）からウトロの状況をお聞きする機会もあり、ウトロを自然と近くに感じていたように思います。ウトロウィークの数日間を過ごして、出会い直しをさせていただいた気持ちです。

ウトロウィークでは、ウトロを守る会のみなさん、ボランティアスタッフのみなさん、来場者など、たくさんの出会いや再会がありました。ネットワークサロンの登録団体の方々とも、お会いすることができました。東九条からもたくさんの仲間がウトロを訪れました。何よりうれしかったのは、私も参加する東九条マダンブムル隊がウトロ農楽隊のみなさんと一緒にさせていただいたことです。第6回東九条マダン（1998年）で、農楽隊のみなさんに出演いただき一緒に演奏してから24年ぶりの共演でした。当時、農楽隊の中で、



ウトロ平和祈念館の開館記念行事で演奏する農楽隊と東九条マダンのメンバーら＝京都府宇治市で2022年5月5日、いずれも中山和弘撮影

楽器を叩く姿がとても素敵で印象的だったのが洪貞子（ホンジョンジャ）さんでした。今回またお会いできると思っていたのですが、亡くなられたことを聞いて、本当に衝撃を受けました。祈念館の展示で、貞子さんやオモニたちがどのように農楽隊を盛り上げ、先頭に立ってウトロを守るたたかいをしてこられたかを知る

ことができました。そして、3階の企画展「ウトロに生きた人々」では、貞子さんをはじめ、ウトロで生きて亡くなられた方々の人生や、その人生に寄り添ってこられた「ウトロを守る会」のみなさんの思いが感じられて、胸が熱くなりました。

ウトロ平和祈念館は、ウトロのみなさんの思いが詰まった施設です。私たちは東九条から、ウトロ住民や支えてこられたみなさんのこれまでに思いを馳せ、ウトロのこれから、祈念館のこれからの思いを寄せたいと思います。

宇山世理子（京都市地域・多文化交流ネットワークサロン）

今回、ネットワークサロン通信のために、ウトロ平和祈念館の事務局員でもある東九条まちづくりサポートセンター（まめもやし）の村木美都子さんに、ウトロの歴史と祈念館設立の経緯を書いていただきました。みなさんがウトロと出会うきっかけになれば幸いです。

## ウトロとは

京都府宇治市伊勢田町ウトロ51番地。昨年の8月30日に起こった放火事件で、名前を知ることとなった方もおられると思います。その地区に今年4月、ウトロ平和祈念館ができました。

この地区は、1940年から国策によって京都飛行場が建設されるために集められた朝鮮人労働者たちの宿舎（飯場：はんば）だった場所です。日本の敗戦で工事は中断、残された朝鮮人労働者たちは何の保障もないまま放置され、行く当てもなく、飯場を修理、または建て替えて住み続けてきました。下水道は整備されず、飲み水は地下水をポンプでくみ上げて使っていました。周囲より低地だったため雨が降ると浸水する家もありました。また、朝鮮人は日本社会でさまざまな差別を受け、ウトロ地区は周囲から孤立していました。そのような厳しい環境や貧困の中でも、ウトロ住民は必死で家族を守り、互いに助け合ってたくましく生きてきました。1988年、上水道がようやく入ったのです



火災の翌日、現場を調べる消防、警察職員。左手前の空き家にウトロ平和祈念館で展示予定の資料が保管されていた＝京都府宇治市で2021年8月31日

が、その直前に、この土地の所有者から不動産会社に土地が転売されてしまいました。土地と建物の明け渡し訴訟が起こされ、最高裁で敗訴が確定しました。植民地支配によって日本に来ざるを得なくなり、労働させられ、戦後さまざまな苦勞を乗り越えて生きてきたウトロ住民にとって、この場所は第二の故郷でした。いきなり出ていけと言われたことに住民は納得できず、「ここに住み続けたい！」という思いを支援者とともに国内や国連、そして韓国市民に訴え続けました。その粘り強い運動の結果、国内外、とりわけ韓国の支援団体と日本市民の協力によって土地の一部を買い取り、そこに宇治市が市営住宅を建設（1棟40世帯は入居、2棟12世帯は来年の入居待ち）、その隣にウトロ平和祈念館を建設することができたのです。

長い闘いを勝ち抜くことができたのは、ウトロ住民の強く熱い思いと、それを支え続けた支援者、そしてその声を聞いて賛同・協力してくださった国内外の人々と韓国市民、韓国政府の応援によるものなのです。

昨年に起きたウトロ地区放火事件は、当時22歳の青年が、ウトロ地区の歴史を知らず、またウトロ住民にも出会わず、インターネットの誤った情報を信じ、偏見や憎悪意識を募らせたことによって起こったものです。この事件により、祈念館に展示する予定の立て看板がほぼ焼けてしまいました。ウトロ平和祈念館では、日本になぜ「在日」がいるのか、ウトロ住民がどんな歴史を生きてきたのか、支援者と住民が協働してウトロ地区を守ってきた様子、またここを訪れた国内外のさまざまな人たちとウトロ住民との交流の様子が



宇治市職員の案内で完成した市営住宅を見学する住民ら  
京都府宇治市で2018年1月7日

展示されています。それだけではなく、ウトロ住民と来館者との直接の出会いの場でもあるのです。このような悲しい事件を二度と起こさないためにも、ウトロ平和祈念館が、「在日」と日本人、そして世界の人たちが出会い、ともに未来を考える希望の施設でありたいと願っています。

村木美都子（東九条まちづくりサポートセンター）



京都地裁の判決言い渡し後、被告の姜景南さん（故人）は記者会見で「立ち退かせるならまず私を殺してから」と訴えた  
＝京都市上京区で1998年1月30日

## ウトロ平和祈念館施設案内

<所在地・お問い合わせ> 〒611-0043

京都府宇治市伊勢田町ウトロ51-43

TEL : 0774-26-9222

FAX : 0774-41-7276

E-MAIL : info@utoro.jp

<開館日時> 金・土・日・月曜日

10:00~16:00

(有料団体研修ガイドは要予約)

<休館日> 火・水・木曜日

※火曜日は団体研修ガイドのみ(有料/要予約)

・年末年始(12月28日~1月5日)・盆休み(8月14日~8月16日)

<入館料> 一般300円/小学生100円/小学生未満無料

詳しくはウトロ平和祈念館のホームページをご覧ください。 <https://www.utoro.jp>



定期的に行われる「ウトロ喫茶」は来館者と住民の語らいの場となっている。京都府宇治市で2022年8月28日、いずれも中山和弘撮影



## やっと会えたね 第30回東九条マダン

2022年10月30日、青空がマダンのお祝いに来ました。ソゴを持つ子ども達は30名を超え、チャンゴの子ども達も20名、70代から保育園児までの100名に及び大ブムル（朝鮮半島の民族楽器）隊が、元陶化小学校の校庭で躍動しました。

コロナのため、2年間、子ども達は楽器に触れることがなかったのですが、9月からの約2ヶ月間、希望の家ホールと、北岩本公園で、週1回練習しました。私は何度か、子ども達に「今年のマダンいつ？練習いつから？」と聞かれました。その度に、残念な気持ちと、この子ども達が再び楽器を叩く場を作りたいという強い思いを持ちました。東九条マダンは、地域の理解と支援がなければ、30年続けることは出来ませんでした。その中で、第1回のマダンの年に生まれた地域の青年が、サムルのたまごでケンガリを叩き、個性豊かな仲間たちをリードしています。30年間、ソゴやチャンゴを叩き踊った子ども達は、延べ千人に及びます。国籍、民族、心身の状態に関わらず、東九条に来れば、朝鮮半島の民族楽器に触れ、踊りの輪が出来る。そこには差別も偏見もなく、笑顔がある。東九条マダンには、凌風学園吹奏楽部の演奏、京都朝鮮初級学校と京都国際学園の舞踊、マダン劇、和太鼓とサムルノリのコラボ演奏があり、人々の心を揺さぶる。そんなマダンが帰って来



3年ぶりに観客を迎えて開かれた30回東九条マダン=いずれも京都市南区の元市立陶化小で2022年10月30日

ました。また今年は地域の沖縄バンドの出演が花を添えました。

未だコロナが終息していない中、感染対策を徹底し、飲食もなく、時間も短縮し、制限された開催ではありましたが、多くの方が集まり、再会を喜ばれていました。事務局としては、安全に開催出来たことにホッとしています。来年こそ、美味しい飲食出店のあるマダンに戻りたいです。

今年の5月、ウトロ祈念館オープニングで、大人は久しぶりの有観客でのブンムルノリを経験しました。ウトロ農楽隊との共演は、初期のマダン以来だったのでとても感動的でした。今後も、東九条マダンが、地域に愛され、そして、多様な人たち、多様な地域と繋がり、お互いを尊重し、自らが楽しく解放される広場でありたいと心から願います。

金光敏（東九条マダン実行委員会 事務局長）



戦後、異国にとり残された朝鮮人のハルモニと日本人のおばあさんの人生を織り込んだマダン劇



東九条マダンの理念を体現する和太鼓とサムルノリの共演（ワダサム）



凌風小中学校吹奏楽部はチャンゴも使って演奏した

中山和弘、丁春燁撮影

### 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分

16・84系統 河原町東寺道より 徒歩1分